

とする海上諸團體の合併が過去に於て數次に亘つて行はれつゝ今日に到つた所以である。

我等は日本海員組合の創立以來常に孜々黙々として右記せる理想の實踐に努力し海員救済會、東洋機關俱樂部、海洋統一協會、大日本船舶司厨同志會を合併せしめ又過去に於る一切の感情と行きがかりを棄て燃ゆるが如き階級愛と忠實なる社會眞理探究の誠意を實踐す可く茲に決然として〇K研究俱樂部及郵司同友會の同志諸君を我等の陣營に迎えんとするのである。

今や郵司同友會及〇K研究俱樂部の同志諸君と共にこの解放戦線に於る唯一喜悅を俱にするに當り海上に於てたゞ一つ残されたる我等の同志も必ずや近き將來に於て我等の陣營に來り今我等の味はひとつある歡喜を共に享くる事を信す。

敢て宣す。

昭和四年七月二十二日

日 本 海 員 組 合

## 組 織 部 報 告

經濟的行詰りに直面せる海上資本家群の打開對策は諸産業部門に於ける産業合理化運動と相併行して進められ全國的に乗組船員の労働條件を低下せしめ日本産業の原動力たる海員を生活苦の極底に追ひつめることをすら敢てせんとするに至つた。此事は海員組合運動の實踐を通ずる宣傳の効果と相俟つて従來組合運動に無關心であつた多數の海上労働者をしてその階級的意識を激發し團結の必要を強認せしめよつて以て海上戦線の統一強化はますます實現せられんとしつゝある。

即ち昭和四年度に於て本部及支部が取扱つた労働條件に關する交渉数は主要なるものについて言ふも、一般労働條件に關しては二十七件、賣船手當に關しては十七件、遭難手當に關しては十四件、繋船並に解放手當に關しては十七件合計七十餘件に上り此外個人に關する交渉事件を數ふれば數百件に上り、然も社會的情勢が無産階級にとつて極めて不利なる時機にもかゝはらず殆んど全部有利なる解決を見たことは組合員の積極的支持と一糸亂れざる統制と訓練の賜であるといはなければならぬ。

かくて本年度吾等の陣營に参加したもの、數は計七千餘に上つたが従つて組合戦線も亦擴大するの必要を生じたかめ本年度新に富山縣伏木に出張所を開設し爾餘の九支部二出張所二事務取扱所と相まつて吾國全海上に於ける労働情勢に關して積極的監視と進出との任に當りつゝある。